

言語技術の効果的な活用・言語活動の充実を図った
社会科の授業実践例

世羅町立世羅中学校

- 1 学年・単元名 第2学年 「日本の近代化」開国
- 2 本時の目標 ペリー来航から日米修好通商条約の締結に至る過程を考えることを通して、開国し不平等条約を結んだのはなぜかを考察することができる。
- 3 本時の工夫点 ペリー来航時の絵の分析を通して、日米修好通商条約の締結にはデメリットしかなかったのかどうか、自分の考えをワークシートに書かせ、それをもとに意見交流を図る。
- 4 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<p>(1) 課題設定 幕府は、なぜ不平等条約を結んだのだろうか。</p> <p>(2) 集団思考</p> <p>資料1「江戸湾に姿をあらわした黒船」を班で分析し、わかったことを発表する。</p> <p>資料2「ペリー来航時の江戸湾の様子」を班で分析し、わかったことを発表する。</p> <p>資料3「黒船来航で早馬をとばす役人」を班で分析し、わかったことを発表する。</p> <p>(3) 個人思考 書く活動</p> <p>戦う準備までしていたのに開国し、不平等な条約を締結したのはなぜか、自分の考えやその根拠をワークシートに書く。</p>	<p>資料1</p> <p>・ペリーは日本に何を求めて来航してきたのかをおさえる。</p> <p>情報を的確に分析する技術 分析のポイント 関係 特徴 班 全体</p> <p>資料1 日本とアメリカの船の違いを読み取らせ、国力の差に気付かせる。</p> <p>資料2 幕府軍の特徴を読み取らせ、軍事力の弱さに気付かせる。</p> <p>資料3 幕府軍の見せかけの大砲に気付かせ、経済力の弱さに気付かせる。</p>	<p>「江戸湾に姿をあらわした黒船」の絵図</p> <p>資料2</p> <p>「ペリー来航時の江戸湾の様子」の絵図</p> <p>資料3</p> <p>「黒船来航で早馬をとばす役人」の絵図</p>
<p>(4) 集団思考</p> <p>ワークシートに書いた自分の考えをもとに発表し、交流する。</p> <p>日米修好通商条約の締結は、デメリットしかなかったのか、自分の考えとその根拠をワークシートに記入し、発表する。</p> <p>(5) まとめ 書く活動</p> <p>・本時の授業で考えたことやわかったことをワークシートに記入する。</p>	<p>・資料の分析結果を根拠にした意見を求める。 (国力の違い、幕府に勝ち目はない等)</p> <p>受け答えをする技術 ・結論先行で、根拠を明確にして発表する。</p> <p>書く活動</p> <p>受け答えをする技術 ・結論先行で、根拠を明確にして発表する。</p> <p>・状況により、既習事項について資料を提示し、具体的に考えさせる。</p> <p>・日米修好通商条約を締結したことにより、日本は植民地にされず独立を保てたことを確認する。</p>	<p>・ペリー来航後、開国し不平等条約を結んだのはなぜかを考え、ワークシートに書いたり、発表したりすることができる。 (発言、ワークシート)</p>